

～町の人々が充実できるお手伝いを～

新地町役場 復興推進課 吉本 幸弘 さん

被災者の方へ、ソフトの支援を

■現在の活動

高知県庁からの派遣で、新地町役場で復興関係の事務をしています。復興に向けてのソフト面（人・アイデア・交流など）支援の窓口が主な担当です。

例えば、復興に向けて活動している団体からの書類申請に応じたり、活動の進み具合を確認しています。どんな活動にするかを団体にアドバイスをすることもあります。

また町が整備を進めている「防災緑地公園」の維持管理計画を検討するメンバーにも関わっています。



展望台から町を眺めながら説明いただく吉本さん



吉本さんが携わった旧新地駅のジオラマ（上）復興フラッグストーリー（右）

役場の展望台にあります



自分にも、できることがある

■活動のきっかけ

西日本出身で、東日本大震災時は高知県の職員として事務の仕事をしていました。

震災から数年たつと、西日本では震災の話をあまり聞かなくなっていて、復興は進んでいると勝手に想像していました。ですから平成26年の冬、復興に向けた応援職員の募集を知った当初は驚きました。ただ、今まで復興に貢献していない自分でも「事務屋としてできることがあるなら」と応募を決めました。

初めて新地町へ車で来る途中、線量計の数値やたくさんの黒いフレコンバッグを目にして、身の引き締まる思いでした。新地町役場の展望台から町を見下ろした時も、多くの工事現場や震災の爪痕が残る建物が見え、復興はまだまだだと痛感しました。

赴任してから「防災集団移転団地や公営住宅に入ったら、かえって交流がなくなった」という声を多く聞きました。住むところが安定してからも、まだまだ支援は必要だと感じていたところ、今の窓口を担当するようになりました。関わった町民から「事業ができてよかった」と喜んでもらえるとうやりがいを感じます。

復興にむけて仕事をした経験を、今後役立てたい

■活動を通じての思い

住まい再建の面では、新地町は県内でもかなり進んでいると思います。ただ、自分から交流できない人もいらっしゃるのでは、見守りや外に出てもらう工夫は行政も民間も取り組むべきだと思います。

再来年、防災緑地がほぼ出来上がります。防災緑地と、そこでの人々の活動をうまく結びつけることで、みなさんが少しでも元気になれたらと考えています。

まわりの人はみんな「復興」の大きな命題に向かって仕事をしています。行き詰まったと感じても、町のみなさんや役場職員と話をすることで先が見えるので、大きな苦労はあまり感じていません。

■これからの活動

いずれ高知県に戻らなければならない時が来るとは思いますが、他の市町村で復興の仕事をするかもしれないかもしれません。まだまだ復興が道半ばの地域も多いと感じています。

東日本大震災の復興にむけて仕事をした経験は、今後何らかの役に立てたいという思いは強くあります。いろんな制度を实际運用するノウハウなど、得られたことがお返しできればと思います。



「心の復興事業」で作られたジオラマ
平成29年度は住民の方も参加して作る予定だそうです

他にはないアーカイブと、気候をぜひ体感しに来てください

■メッセージ

新地町には「復興フラッグ」という震災アーカイブがあります。「復興を想う人々、それを支える人々それぞれの思い」が旗という形で実を結んだもので、多くの建物や記録のアーカイブとは異なります。震災以降、復興のシンボルとして共感の輪が広がっています。ぜひ直接見に来てください。

新地町は特に気候がよく夏場は涼しいため、時に高知県に帰りたくないと思うぐらいです。山も海も近く、人々の暮らしや交流にはすごくいい地域だと思います。

(私は復興の途中からこの町に来たので、本当の復興のパイオニアというのは、震災直後から自分の時間を惜しんで復興に携わってきた人達のことだと思います。)



役場前の復興フラッグ